

陽の里

発行 平成18年10月1日

社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター

サンビレッジ



No.93

テーマ ～暮らしと住まい～



暮らしと住まい

サンビレッジ ヴィラアンキーノ住人 山下ルリ子

カナカナの声を聞かなくなったと思ったある日、「ちゃぼぼ」の前の坂で秋茜の群に思わず足を止める。空が青い。身の廻りの物と一緒に義理もしながらみも、そして主婦も半分捨ててアンキーノの住人となりはや一年余が過ぎた。

はじめてアンキーノを訪ねた日、人里離れた豊かな緑の中の住居に心ひかれながらも、こんな不便な処に棲んだら一気に脳の老化が進むのではとの思いが強かった。しかしそれから二年、三回の体験宿泊で、ここに働く人達の真心と本物の優しさの虜になってしまった。

▲住まいにてゆっくり過ぎていく時間を好きな本と共に
入居してからの毎日はただ感謝、少し遠くだったがシャトルバスのおかげで岐阜や名古屋の文化センター等へも今まで通り行けるし、美術館や県図書館は西岐阜から歩いて十五分、これまでより便利になった。映画や町の図書館、スーパーでの買い物等日常生活に不便を感じる事は全くないし、散歩の道にはこと欠かない。床暖房の部屋は冬の朝も快適だし、真夏の暑さもウッドデッキに出れば森を吹き抜けて来る冷気に癒される。
限りある人生の最終ラウンドを、貴重な自然に囲まれたアンキーノで元気に過ごせる幸せを感じている。

サンビレッジ新生苑改修工事にあたり

施設長 太田 澄子

サンビレッジ

新生苑 開設

真っ白な管理棟西壁にくつきりと刻まれたサンビレッジ新生苑の苑章。太陽の炎が次第に大きな炎となっていくのが、サンビレッジマークです。創設者今村勲医師が、暑くて狭い部屋で寝たきりになっている高齢者の姿に、「極楽はあの世でなくこの世に創りたい」との思いをどんどん社会に広げていこうという願いの象徴です。障害を持つていても今迄どおり普通に暮らす為に、日当たりの良い居室、どの部屋にも設置された空調設備、衣類を整理する箆笥、集まって憩うサロン、真夏に涼をとる噴水、そして障害を支え

る介護サービスを整えました。当時の基準を超えた建物は全国的にも注目されました。加えて体調が急変しても対応できる医療と廊下続きに連携でき、外出にも出かけられるよう町の真ん中に立地されたことも画期的なことでした。

利用者生活

それから30年、今では利用者の方々にはホームはアパートと考え、セカンドハウスとしてご利用くださいとお話しています。平成12年より介護保険が導入され、利用料として介護保険の一分割を負担し、17年10月よりホテルコスト(食費・個室料)を負担することになり利用

者の意識も生活も変化しました。そこでは介護の専門家がリハビリの援助をして生活の自立を促したり、書道や絵画、クッキング、カラオケ、旅行などやりたいことを地域のボランティアの方にもお手伝いいただき、「自分らしい人生」の継続に努めていただいております。

改修の意義

ホームでの安気な暮らしに望まれるのが使い慣れた家具と個室、皆と集えるリビングルーム、一人で入れるお風呂や散歩ができる歩道等です。現在4人部屋が多数を占める当施設では其のニーズに 대응することが出来ませんでした。平成5年自由契約制特養を整備した折、生活の質は良い介護サービスのソフトだけでなく暮らしを演出するハードの必要性を強く認識しました。今回の個室化、ユニットケア改修で生活の質がより向上し、障害を持つても今までの暮らしを諦めることなく安心して人生を謳歌できる、地域社会に根ざしたホーム創りが可能になります。「この世の極楽」に一步近づけると確信しています。



▶ ゆったりと自宅で縫い物

改修工事終了後のホームづくり

施設部門チーフ 馬 淵 規 嘉

「ショートステイ」

利用ベッドの増床に向け

在宅で生活をされておられる利用者の皆様にとって、平成18年3月まではサンビレッジ新生苑として6床のショートステイを準備していました。利用される皆様からは、「もう少し長く利用したい。なかなか利用できない。」など、限られたベッドの数でご不自由をかけていました。しかし、今回の改修・新築工事にあたり4月より13床増床させていただき、現在は19床のベッドを準備できる事となりました。また、短い期間だけでなくより在宅生活が継続できるように、御家族の介護負担がもう少し軽減できるように約1ヶ月程度を



▲明るい南向きのラウンジ

目途としたホームシェアリングサービスを実施いたします。1つのベッドを何名かの方で利用して頂くサービスです。「施設への長期入所はまだ……在宅で生活したいけど、もう少し休みが欲しい……」などの声にお答えできるかと思えます。

当苑では、施設利用者の9割の方が何らかの認知症状を呈しておられます。その中で認知症専門のすずらん棟ではショ-

トステイのニーズが高い為、利用できるベッド数を増やしています。また、小規模のユニットケアを実施し、より利用者の思いに寄り添ったケアを提供し、家庭的な雰囲気・見慣れたスタッフなど認知症の方がより安心でき落ち着いて生活ができる介護を実施して、その後の回復ぶりに皆様の評価も高く頂いております。



▲チューリップ棟の東に建つコスモス棟

個室ユニットケア

対応のコスモス棟

着工迫る

当施設では、平成12年より小規模ユニットケアを実践し、現在施設の一部では「公民館方式」により一人ひとりの利用者を選択いただく、暮らしのメニューや、クラブ活動やユニットケアに取り組んでいます。今回新しく18床の新築個室の建物をチューリップ棟の東に建設を予定しており、チューリップ棟の個室化を合わせ、全体の65%が個室になります。ひまわりホールなど賑やかな場所・ユニットでの静かな環境・馴染みの仲間との憩いのおときなど、生活にに応じて対応がより可能になります。今後工事に向けて利用者・御家族の皆様にはご迷惑をおかけするかと存じますが、どうかご協力を頂き宜しくお願い致します。

トピックス

押忍！青春の青い山脈



8月19日に開かれた納涼演芸大会での「コマ。皆で「青い山脈」を歌うため、黒帯道着に身を包んだチューリップ棟の首藤つなさんです。「青春＝柔道」。そのオンラインワンの感性、素敵です！

強く、清く、シンプルに。現代女性の憧れですね。時代を先導するつなさんでした。

若いれど気力一途に頑張ろう

つなさん 心の一句

Good Job! 中野さん宗



デイサービスの男性ユニット「中野さん家(なかのさんち)」を知っていますか？利用者さんは元大工、庭師、ナンパ師？等、超個性的。

「そのうち家でも建てちゃおうか。」

「いやその前に、おねえちゃん引っかけてこよう。」

人生の酸いも甘いも知り尽くした、いぶし銀の「大人の男達」の隠れ家へ是非お越し下さい！

燃えよ ケン!!



～サンビ特派員
兼太郎がゆく～

お母さん、すごいね



今年の夏、職場体験実習「キットセミナー」が開かれました。「僕のお母さんはどんな仕事をしているの？」みんな興味津々。ヘルパーや看護師の優しさ、事務職の正確さ、厨房のあったかい食事。

「すごいなあ」「大変そう」「おいしいなあ」「私も将来やってみたいなあ」

来るべき高齢社会と危惧される諸問題。でも、きっと希望は見えるはず。だって、こんなに澄んだ真剣な眼差しを持つ子供達が成長した未来なのですから…。

サン、サン、賛美!



同じく8月19日の夜、サンビレッジ新生苑の盆踊り大会が盛大に行われました。お年寄りも職員、そして地域住民も一体となって踊れや踊れ！

そして最後のおおとりはサンビが誇る、よさこい「はつらつチーム」！きつい練習も全ては「みんなの喜ぶ顔が見たい」その一心で汗と涙、そして最後は笑顔。やっぱり人間って素晴らしい。サンビはそんな人間賛美の学び舎です。

紹介

サンビレッジ特派員
棚橋兼太郎

現在デイサービスセンターに勤務する、「人に優しく、自分にも優しく」がモットーの、悩める29歳乙女座のA型です。今回初めてトピックス担当になり、面白いことを求めて駆け回りました。サンビレッジにはあちらこちらに笑顔が溢れています。これからも「心がうれしい」瞬間を皆様にお届けします。